

| | | | |
|---|--|-------------|----------|
| 1. 科目名 (単位数) | 家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) (2単位) | 3. 科目番号 | PSMP5264 |
| 2. 授業担当教員 | 石川 清子 | | |
| 4. 授業形態 | 講義 (発表とディスカッションを含む) | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | | 履修形態 (通信教育) | R |
| 7. 講義概要 | <p>フロイトは乳幼児期という何も分からないような時期の育ちこそ人格形成の基盤となっているということを見出したと言ったことができよう。後の数々の心理療法の発展は、その対処法にバリエーションがでてきたと言ってもよいであろう。また、人間は生涯を通じて集団としての地域・社会や家族における他者との関わりの中で生き、その最も身近な人間関係の一つに「家族」がある。</p> <p>家族というものは、このように我々人間には不可欠なものであり、十分に研究対象になるものであり、かつ治療にも家族療法という道が生じてきている。ここでは、家族の基本的な問題を概観していく。</p> | | |
| 8. 学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族にまつわる様々な問題や課題を心理学的に考察できる力を養う。 2. 家族を形成する諸要因として、家族・社会集団・文化の相互作用に関する理解を養う。 3. 家族・集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を理解できる。 | | |
| 9. アサインメント及びレポート課題 | <p>レポートテーマは以下である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族を理解するための鍵概念についてまとめ、家族集団としての多様性を議論しなさい。 2. 学習の展開第3回から第8回の学習内容より関心ある家族の発達段階を選び、家族心理学の概念や理論を学習し、その段階における家族の問題に関して近年の研究動向をまとめなさい。 3. 学習の展開第10回から第15回の学習内容より、夫婦関係の危機と援助について、家族心理学の概念や理論を参考に、問題の対応に関して近年の研究動向をまとめなさい。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】 中釜洋子他著『家族心理学』有斐閣ブックス 各回の配布資料</p> <p>【参考文献】 岡堂哲雄編『家族心理学入門』培風館 柏木恵子他著『家族心理学への招待』ミネルヴァ書房 日本家族研究・家族療法学会編『家族療法テキストブック』金剛出版</p> | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準 上記の目標を達成できること。</p> <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容 30% ・レポート 35% ・テーマ毎の理解度 35% <p>*出席が4分の3を満たしてはじめて評価の対象となる。(レポートのみ提出しただけでは、その内容にかかわらず評価対象とならない。注意)</p> | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | <p>学部で家族心理学を学んでいることが望ましいが、授業では基本的なことから始めていくから興味と関心のある学生なら受講が可能である。また、教科書もわかりやすいものを採用しているので学びやすい。しかし、発表やレポートの記述の際には、自ら関係のある論文を探して欲しい。</p> | | |
| 13. オフィスアワー | 別途通知します。 | | |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | | |
| 1. テーマ | 第Ⅰ部 家族とは何か 家族システム理論 | | |
| | <p>【学習の目標】 家族とは何か、その意味の変遷を理解する。家族・集団・文化の相互作用を理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族心理学の誕生並びに家族システム理論を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 家族の定義、家族心理学の誕生、システム理論</p> <p>【学習の課題】 家族から個人の時代をどう考えるか。</p> <p>【参考文献】 平木典子『家族との心理臨床——初心者のために』垣内出版、1998</p> | | |
| 2. テーマ | 家族を理解するための鍵概念 | | |
| | <p>【学習の目標】 家族理解のための3つの属性を理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族の構造・発達を考察する。</p> <p>【キーワード】 家族の構造・機能・発達、ジェノグラム、エコマップ</p> <p>【学習の課題】 家族の多様化、並びに少数派 (同性愛家族) への配慮</p> <p>【参考文献】 佐藤悦子『夫婦療法——二者関係の心理と病理』金剛出版、1995</p> | | |
| 3. テーマ | 第Ⅱ部 家族の発達 独身の若い成人期 | | |
| | <p>【学習の目標】 家族ライフサイクルから見た独身の若い成人期の重要性を理解する。</p> <p>【学習の内容】 親密な人間関係の確立について考察する。</p> <p>【キーワード】 職業選択、心理的自立、配偶者選択、親密性</p> <p>【学習の課題】 成人前期の過ごし方のポイント</p> <p>【参考文献】 野末武義『夫婦関係におけるアサーションの意味』至文堂 (2008)</p> | | |

| | |
|------------|--|
| 4 . テ ー マ | 結婚による家族の成立期 |
| | <p>【学習の目標】 現代の結婚事情と若者層の離婚の動向を理解する。</p> <p>【学習の内容】 新婚期の発達課題を考察する。</p> <p>【キーワード】 夫婦関係の特質、相互信頼感、カップルダンス</p> <p>【学習の課題】 垂直的関係と水平的関係のバランス</p> <p>【参考文献】 平木典子『新婚時代のカウンセリング』現代のエスプリ別冊、1991</p> |
| 5 . テ ー マ | 乳幼児を育てる段階 |
| | <p>【学習の目標】 子どもの誕生に伴うストレスを理解する。</p> <p>【学習の内容】 妊娠、出産・子育てによる夫婦関係の変化を子どもの発達促進させる機能面から考察する。</p> <p>【キーワード】 夫婦が直面する危機、満足度の変化、子育てのあり方</p> <p>【学習の課題】 子育て支援のポイント</p> <p>【参考文献】 柏木恵子 他『親になることによる人格発達——障害発達の見地から親を研究する試み』発達心理学研究5（1）、75～83、1994</p> |
| 6 . テ ー マ | 小学生の子どもとその家族 |
| | <p>【学習の目標】 現代の小学生事情を理解する。</p> <p>【学習の内容】 子どもの習い事や塾通いを考察する。</p> <p>【キーワード】 学校という新しい環境、家族内の三角関係、仲間作り</p> <p>【学習の課題】 スクールカウンセラーという立場からの家族支援</p> <p>【参考文献】 近藤邦夫『子どもの成長・変容をうながす心理教育』新曜社、2000</p> |
| 7 . テ ー マ | 若者世代とその家族 |
| | <p>【学習の目標】 思春期と青年期の子どもがいる家族の特徴を理解する。</p> <p>【学習の内容】 親達の思秋期を考察する。</p> <p>【キーワード】 移行期の家族システム、自我同一性の確立、中年期の危機</p> <p>【学習の課題】 子どもの心理的・経済的に独り立ちに伴う親側の課題</p> <p>【参考文献】 斉藤肇『社会的ひきこもり——終わらない思春期』PHP 研究所、1998</p> |
| 8 . テ ー マ | 老年期の家族 |
| | <p>【学習の目標】 高齢化の現状と家族との関係を理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族による高齢者介護の問題点を考察する。</p> <p>【キーワード】 人生の統合、高齢者虐待、夫婦関係の再構築</p> <p>【学習の課題】 家族介護者への支援の方法</p> <p>【参考文献】 竹中星郎『高齢者の孤独と豊かさ』日本放送出版協会、2000</p> |
| 9 . テ ー マ | 第三部 家族と臨床的諸問題 家族への臨床的アプローチ |
| | <p>【学習の目標】 家族療法を理解する。</p> <p>【学習の内容】 他の臨床的アプローチと家族療法との違いを考察する。</p> <p>【キーワード】 内面の整理、関係性の調整、リフレーミング</p> <p>【学習の課題】 関係療法という視点からみえてくるもの</p> <p>【参考文献】 下坂幸三編『心理臨床としての家族援助』金剛出版、2001</p> |
| 10 . テ ー マ | 夫婦関係の危機と援助 |
| | <p>【学習の目標】 夫婦関係の危機とその心理支援の在り方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 カップルセラピーを考察する。</p> <p>【キーワード】 葛藤、離婚、再婚</p> <p>【学習の課題】 夫婦という人間関係の再構築のためのセラピーのあり方</p> <p>【参考文献】 日本家族心理学会編『夫婦・カップル関係——新しい家族のかたちを考える（家族心理学年報24）』金子書房、2006</p> |
| 11 . テ ー マ | 子育てをめぐる問題と援助 |
| | <p>【学習の目標】 育てにくい子ども達との関係性を理解する。</p> <p>【学習の内容】 育児不安、児童虐待の現実とその支援法を考察する。</p> <p>【キーワード】 問題を抱える子ども、虐待の背景、家族支援</p> <p>【学習の課題】 情緒障害児短期治療施設での援助活動</p> <p>【参考文献】 石川実編『現代家族の社会学——脱制度化時代のファミリー・スタディーズ』有斐閣、1997</p> |
| 12 . テ ー マ | 発達障害と家族支援 |
| | <p>【学習の目標】 発達障害児者のライフサイクルをベースに、彼らの家族支援の在り方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 発達障害の特性の理解と、ライフサイクル支援モデルを考察する。</p> <p>【キーワード】 合理的配慮・家族の障害受容・セルフアドボカシー</p> <p>【学習の課題】 発達障害児者のライフサイクルにおける支援モデル</p> <p>【参考文献】 三谷聖也「発達障害とライフデザイン支援」『保健医療に生かす個と家族を支える心理臨床』金子書房、2016</p> |
| 13 . テ ー マ | 家族が経験するストレスと援助 |
| | <p>【学習の目標】 災害・喪失・病気など家族が遭遇するストレスを理解する。</p> <p>【学習の内容】 喪失の乗り越え方を視野に入れた支援法を考察する。</p> <p>【キーワード】 連続性、災害、喪失、</p> <p>【学習の課題】 家族レジリエンスとコネクテッドネス</p> <p>【参考文献】 清水将之『災害の心理——隣に待ち構えている災害とあなたはどうか』創元社、2006</p> |

| | |
|--|----------------|
| 14 テーマ | 家族の中のコミュニケーション |
| <p>【学習の目標】 家族におけるコミュニケーションの役割を理解する。</p> <p>【学習の内容】 コミュニケーションの意味を考察する。</p> <p>【キーワード】 ダブルバインド、DV、解決志向アプローチ</p> <p>【学習の課題】 アサーションという観点</p> <p>【参考文献】 長谷川啓三『家族内パラドックス』彩古書房、1987</p> | |
| 15. テーマ | 女性と家族・男性と家族 |
| <p>【学習の目標】 家族における女性と男性の役割を理解する。</p> <p>【学習の内容】 誰が女性を援助するのか、社会や組織を視野に入れたサポートシステムを考察すると同時に、父親並びに夫の理解とその援助法を考察する。</p> <p>【キーワード】 役割期待、三歳児神話、ラジャー・システム／仕事、男らしさ、企業社会</p> <p>【学習の課題】 女性の多重役割葛藤の問い直しを考え、ジェンダーという観点に関しても視野を広げる。</p> <p>【参考文献】 園田雅代他編『女性の発達臨床心理学』金剛出版、2007／柏木恵子他編『日本の男性心理学——もう一つのジェンダー問題』有斐閣、2008</p> | |